

## 先行企業の取り組み

## 外国の政府や企業から自力で受注

コスト競争力を高めて元請けの受注支援に乗り出す下請けも

## ODA介さずネパールで単独受注

## ▶丸新志鷹建設(富山県立山町)

「近い将来、受注高の構成比率が海外7割、国内3割になる」。丸新志鷹建設(富山県立山町)の穴口義記常務は、会社の業績をこう予想する。同社の年間売上高は30億円規模だが、ネパールとブータンで施工中の工事は契約金額で総額80億円近くに上る。「年内に両国でもう1件ずつ受注できる可能性がある」(穴口常務)。受注高の内外逆転が起こるのも、そう遠い先のことではない。

丸新志鷹建設がネパールに進出し

てから、3月で22年がたつ。この間に同国で道路工事やかんがい工事を受注。3年前には隣国のブータンでも道路工事を受注した。いずれも日本の政府開発援助(ODA)を介さずに、国際競争入札で受注した。

ネパール進出のきっかけは、立山連峰のふもとにある地元の立山町の小学校と、ヒマラヤのふもとにあるネパールのクムジュン村の小学校が、1991年に姉妹校提携を結んだことだ。「地元企業としてネパール

に役立てないか」と考え、92年に首都カトマンズに支店を開設した。

## 転機となった04年の道路改良工事

しかし当初は、事業が順調に進まなかった。支店長に就いた現地の有力な建設会社の経営者が、支店開設直後に飛行機事故で死亡。クムジュン村の小学校の教頭が後を継いだ。支店の運営はうまくいかなかった。日本企業が単独で現地の公共工事を受注できないという事情もあった。

そこで、丸新志鷹建設は現地の建設会社を子会社化し、その子会社が道路や吊り橋など小規模な工事を受注しながら、支店の存続を図った。子会社の社長には支店長を据え、子会社と支店が事実上一体的に運営できるようにした。それでも、子会社が十分な受注量を確保できず、支店の運営は厳しい状況が続いた。

転機は2004年。道路改良工事の国際競争入札で、丸新志鷹建設が現地の建設会社とJVを組み、約5億円で落札した。ところが、05年の政変で契約が延期。08年に着工に至っ

## 会社概要

- 会社名:丸新志鷹建設
- 本社所在地:富山県立山町
- 会社設立年:1964年
- 従業員数:約50人
- 売上高:約29億円(2013年2月期)

海外進出国・地域  
ネパール、ブータン



丸新志鷹建設が手掛けるネパールのカルナリ川のかんがい頭首工工事の現場。2013年6月の水害で工期が当初の13年8月から14年6月に延びた(写真:丸新志鷹建設)

たが、用地買収の遅れなどトラブルが続出。18カ月の工期が36カ月に延びるなど、工事は困難を極めた。

それでも11年に工事が完了すると、現地のメディアが大きく報道。「住民の反対にも誠実に対応するなど、さすがは日本企業だ」と評判になった。その後、ネパール最長のカルナリ川のかんがい関連工事を丸新志鷹建設が単独で受注。契約金額は3件で総額約50億円に上った。評判は隣国ブータンにも及び、11年に国道工事3件を総額約16億円で単独

受注した。

## 技能研修生OBが現場を仕切る

丸新志鷹建設の穴口常務は、「信頼できる現地人スタッフがいるからこそ、ネパールとブータンで事業を進められる」と話す。両国で現場の施工管理に当たるのは、1994年から2004年に同社がネパールから受け入れた技能研修生のOBだ。約10年間の受け入れ人数は延べ88人に上り、現在でも交流が続いている。

丸新志鷹建設のネパール事業は、

苦難の連続だった。金融機関から通常の融資を受けられず、社長が自身の生命保険まで担保に入れて資金をかき集めたこともあった。社内でネパール事業への反発が高まった時期もあった。それでも、事業を続けてきたのは、「ネパールに貢献したい」という社長の思いだった。

「ネパール事業が軌道に乗るまで10年以上かかった」と穴口常務。今後は、ネパール支店を拠点にインドやバングラデシュなど南アジアの周辺国への進出も視野に入れている。

## 香港で仏大手から杭撤去を受注

## ▶杉崎基礎(新潟市)

海外に進出している中小建設会社は、元請けだけではない。下請けの専門工事会社でも海外事業を積極的に展開しているところは多い。なかでも、基礎工事や地盤改良工事など現地企業と差別化できる特殊技術を

持つ専門工事会社の動きは活発だ。

基礎工事を専門とする杉崎基礎(新潟市)も、その一つ。同社の香港現地法人が2009年に、世界的な建設企業グループであるフランスのブイググループと契約。香港の新幹線



杉崎基礎の香港現地法人が既存杭撤去工事をドラガー・ブイグJVから受注した。ブイグはフランスに本拠を構える世界的な建設会社。ドラガーは香港の有力建設会社で、ブイグ傘下にある(写真:68ページも杉崎基礎)

建設工事に伴う既存杭撤去工事を約13億円で受注した。10年末に着工し、12年末に工事を完了した。

## 「受注機会がどんどん増えていく」

香港の既存杭撤去工事は2年間だから、単純計算すると同工事の各年の売り上げは約6億5000万円。杉崎基礎の年間売上高は通常25億円前後なので、香港の工事だけでその25%を稼いだ計算になる。ただ、同社にとって業績以上にインパクトが大きかったのは、香港市場開拓の足場を築けたことだ。

香港市場は、元請けの建設会社に

## 会社概要

- 会社名:杉崎基礎
- 本社所在地:新潟市
- 会社設立年:1968年
- 従業員数:約60人
- 売上高:約30億円(2014年3月期見込み)

## 海外進出国・地域

香港、バングラデシュ、タイ、カンボジア、ベトナム、インド、アラブ首長国連邦、タンザニア、インドネシア